

2024 年 12 月 31 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【今年（2024 年）のドル／円】

今年（2024 年）のドル／円を振り返ります。

+++++

日銀は、今年 1 月（2024 年 1 月 22 日、23 日）に開催した金融政策決定会合で、従来の大規模な金融緩和策の維持を決定した。

つまり、マイナス金利政策を維持し、長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）も従来のまま、上場投資信託（E T F）買い入れも現状のままとした。

短期金利は、日銀当座預金の一部にマイナス 0.1%のマイナス金利を適用する。

長期金利は 1%を上限の「めど」とする従来の政策に変更は無い。

賃金と物価をさらに見極める必要があるとした。

+++++

今年 1 月（2024 年 1 月 30 日、31 日）の F O M C では、政策金利据え置きを決定した。

4 会合連続での政策金利据え置き。

政策金利の指標であるフェデラルファンド金利（F F 金利）の誘導目標を、5.25～5.5%に維持するとした。

声明文に、以下の表現を追加し、金融引き締めを続ける姿勢を示した。

「2%の物価目標達成に向け、より確かな自信を得るまで利下げは適切ではない」

+++++

今年 3 月（2024 年 3 月 18 日、19 日）の日銀金融政策決定会合で、「マイナス金利政策」を解除し、金利の引き上げを決定した。

イーールドカーブ・コントロールの金融政策も終了する。

E T F の新規購入も終了することを決めた。

+++++

今年 3 月（2024 年 3 月 19 日、20 日）の F O M C では、政策金利据え置きを決定した。

5 会合連続での政策金利据え置き。

今年（2024 年）の利下げについては、3 回と、従来予想を据え置いた。

+++++

今年(2024 年)の 1 月から 3 月までのドル／円は、上限は 152.00 アラウンド、下限は 140.00 アラウンドのボックス相場を形成した、と考えます。

+++++

今年 4 月（2024 年 4 月 10 日）の米国 C P I（消費者物価指数）が、前年同月比の事前予想+3.4%に対して、結果+3.5%と、上振れした。

そのため、F R B が早ければ 6 月にも利下げを行うといった期待が否定された。

マーケット（外国為替市場）は、「ドル買い円売り」に反応し、それまでの高値（152.00 アラウンド）を更新して上昇を始めた。

+++++

日銀は、今年 4 月（2024 年 4 月 25 日、26 日）の金融政策決定会合で、政策金利の現状維持（＝無担保コール翌日物金利を、0-0.1%に誘導する）を決定した。

この決定を受けて、ドル／円は高値を更新してさらに上昇した。

+++++

2024 年 4 月 29 日（月曜日）は、祝日「昭和の日」で東京外国為替市場は休場。

そういった状況下で、2024 年 4 月 29 日（月曜日）の日本時間の午前中に、ドル／円は 160 円台前半に上昇した。

ところが、日本時間の午後に、ドル／円は 155 円台に大きく急落した。

2024 年 4 月 29 日（月曜日）の夕方、財務省の神田財務官は、「為替介入の有無については、ノーコメント」と述べている。

※後日の報道を見ると、5 兆円規模の介入が実施された可能性が高い。

+++++

今年 5 月（2024 年 4 月 30 日、5 月 1 日）の F O M C では、政策金利据え置きを決定した。

6 会合連続での政策金利据え置き。

+++++

5 月 1 日の F O M C での政策金利据え置き発表後、30 分ほど経過すると、再び、「為替介入」が実施された模様。

ドル／円は、再度、大きく急落した。

+++++

今年 6 月（2024 年 6 月 11 日、12 日）の F O M C では政策金利据え置きを決定した。

7 会合連続での政策金利据え置き。

+++++

日銀は、今年 6 月（2024 年 6 月 13 日、14 日）の金融政策決定会合で、政策金利の現状維持（＝無担保コール翌日物金利を、0-0.1%に誘導する）を決定した。

これらの決定を受けて、マーケット（外国為替市場）は、「ドル買い円売り」に反応した。

ドル／円は、162.00 アラウンド（正確には、161.95 アラウンド）の高値を付けた。

+++++

2024 年 7 月 11 日の米国 C P I 発表後、ニューヨーク市場で、財務省・日銀が「ドル売り円買い介入」を実施した模様。

ドル／円は、157 円台ミドルに急落した。

+++++

その翌日（2024 年 7 月 12 日）の P P I（米国生産者物価指数）の発表後、再度、財務省・日銀が「ドル売り円買い介入」を実施した模様。

ドル／円は、大きく急落して、152.00 割れ（151 円台後半）を付けています。

+++++

今年 7 月（2024 年 7 月 30 日、31 日）の日銀金融政策決定会合で、政策金利を 0.25% に引き上げる、と決定した。

つまり、政策金利（＝無担保コール翌日物金利）を、「0-0.1% に誘導する」から、0.25% にする、と追加利上げを決定した。

日銀金融政策決定会合の結果が発表されると、ドル／円は、さらに下落を続けた。

+++++

今年 7 月（2024 年 7 月 30 日、31 日）の F O M C では、政策金利据え置きを決定した。

8 会合連続での政策金利据え置き。

パウエル F R B 議長は、以下の旨を述べた。

「次回 9 月の F O M C で、政策金利引き下げの可能性がある」

この F O M C（2024 年 7 月 30 日、31 日）の発表後も、ドル／円は、下落を続けています。

+++++

今年 8 月（2024 年 8 月 23 日）の「ジャクソンホール会議」の講演で、パウエル F R B 議長は、政策金利を引き下げる時が来た、と述べた。

利下げのタイミングとペースは今後入手するデータによる旨も述べた。

今年 9 月の F O M C での利下げは、確実となった。

マーケット（外国為替市場）は、「ドル売り」に反応した。

+++++

ドル／円は、139 円台に下落しましたが、そこ（139 円台）からは、大きく反発（上昇）しています。

+++++

今年 9 月（2024 年 9 月 17 日、18 日）の F O M C では、政策金利を 0.50%引き下げる、と決定した。

米国フェデラルファンド金利（F F 金利）の誘導目標は、「5.25～5.5%」から「4.75～5.00%」となった。

パウエル F R B 議長は、労働市場の堅調維持を狙った旨を述べた。

+++++

今年 9 月（2024 年 9 月 19 日、20 日）の日銀金融政策決定会合で、政策金利を 0.25%程度で維持する、と決定した。

+++++

2024 年 10 月 27 日（日）に行われた衆院選で、与党（自民党、公明党）は、過半数を割り込んだ。

衆院選明けの月曜日（2024 年 10 月 28 日）のドル／円は、「窓（Gap）」を空けて上昇し、153 円台に乗せた。

+++++

今年 10 月（2024 年 10 月 30 日、31 日）の日銀金融政策決定会合では、政策金利を 0.25% 程度で維持する、と決定した。

+++++

米国大統領選挙（2024 年 11 月 5 日）は、最終的な結果が出るまでに数日かかると事前に予想されていたが、比較的速やかに、ドナルド・トランプ前大統領の勝利が確定した。

選挙速報の時点で、トランプ前大統領の有利が報道されると、マーケット（外国為替市場）は「ドル高円安」に動いた。

+++++

今年 11 月（2024 年 11 月 6 日、7 日）の FOMC では、政策金利を 0.25% 引き下げる、と決定した。

米国フェデラルファンド金利（FF 金利）の誘導目標は、「4.75～5.00%」から「4.50～4.75%」となった。

+++++

次期大統領がトランプ氏に決定して以降、マーケット（外国為替市場）は「ドル買い円売り」に動いている。

+++++

2024 年 10 月頃からのドル／円は、高値圏（上限は 156.50 アラウンド、下限は 148.50 ア  
ラウンド）での持ち合い、と考えます。

+++++

今年 12 月（2024 年 12 月 17 日、18 日）の F O M C では、政策金利を 0.25%引き下げる、  
と決定した。

米国フェデラルファンド金利（F F 金利）の誘導目標は、「4.50～4.75%」から「4.25～4.50%」  
となった。

+++++

今年 12 月（2024 年 12 月 18 日、19 日）の日銀金融政策決定会合で、政策金利を 0.25%程  
度で維持する、と決定した。

マーケット（外国為替市場）は「ドル買い円売り」に反応した。

ドル／円は、高値を更新して上昇し、年末を迎えた。

+++++

（2024 年 12 月 31 日東京時間 14：10 記述）